

2017 年度チャレンジセンター活動実績

東海大学現代教養センター

【チャレンジセンター活動報告会】

中間報告会

①日時：2017 年 10 月 21 日（土）10：00～15：00

②場所：湘南校舎 2 号館 1 階・2 階

③内容：

今回は本キャンパスで同日開催した「TOKAI グローカルフェスタ 2017^{*1}」の一環として実施した。全国のキャンパスで活動する 21 のチャレンジプロジェクトが今年 4 月から 9 月までの上半期の成果を報告するというものであった。今回は、湘南校舎以外のプロジェクトリーダー（各プロジェクト代表 2 名）も湘南校舎に参集した。

プロジェクトに所属する学生たちは、それぞれのブースを訪れた地域住民や学生らに向けて活動の内容をはじめプロジェクト活動のやりがいなどについて紹介したほか、普段会う機会のないキャンパスの学生同士で交流を深める様子も見られた。また、2 号館前では、湘南キャンパスの「ライトパワープロジェクト」のソーラーカーチームと人力飛行機チームによる機体の展示や、「サイエンスコミュニケーター」による実験ショー、熊本キャンパスで活動する「先端技術コミュニティ ACOT」による VR 体験・LEGO ロボットの実演も実施された。ソーラーカーと人力飛行機の機体は子どもたちが輪になって見学し、ソーラーカーの運転席に試乗しようと列をつくっていた。また、実験ショーは長さの異なる金属パイプを地面に落下させて音楽を奏でる「バンジーチャイム」で「星に願いを」を演奏。VR 体験では ACOT が作成した迷路ゲームを参加者が体験した。

今回は残念ながら悪天候のため予定していた観客数には届かなかったものの、プロジェクトメンバーの学生たちからは、「天気には恵まれなかったけれど、思ったよりもたくさんの人が参加して楽しんでくれたのでよかった」「他のプロジェクトに所属するメンバーとの交流では、それぞれの運営方法や活動に際して気を付けている点などを聞くことができ、情報共有の場にもなった。今後の活動に反映していきたい」といった感想が聞かれた。

^{*1} 「To-Collabo プログラム」の大学推進プロジェクト「ライフステージ・プロデュース計大学開放事業」の一環で、大学を市民に開放するオープンキャンパス型のイベント。

第 18 回セミナー（秋学期）

①日時：2017 年 12 月 15 日（金）17：15～18：45

②場所：湘南校舎 8 号館 4 階 401 教室（テレビ会議システムにて中継）

代々木校舎 4 号館 1 階 4103 教室

高輪校舎 1 号館 3 階 1-3 会議室

清水校舎 1 号館 4 階 1409 教室

伊勢原校舎 3 号館 1 階会議室 A

熊本校舎 本館 5 階視聴覚室

札幌校舎 M1212 教室

③セミナー対象者：東海大学学生・教職員・地域からの参加者

④聴講人数：315 名（湘南 264, 代々木 2, 高輪 4, 清水 4, 伊勢原 0, 熊本 41, 札幌 0）

⑤講師：山下 充洋（森永製菓(株)取締役上席執行役員海外事業本部長）

⑥講演タイトル：海外で活躍する大学 OB が語る「世界で戦うための三つのマインド」

⑦講演概要：

講演に先立ち、チャレンジセンターの岡田 工センター長が登壇。世界を舞台に活躍されている山下先生に、社会に出てから必要な力についてお話しいただくので、ぜひ今後の人生に生かしてほしい、と挨拶した。

山下氏は新卒で株式会社マングラムに就職後、2 年目にシンガポール、4 年目にはマレーシアに責任者として赴任し、現地会社の設立に奔走した。そうした日々を紹介し、経営が悪化していた「マングラムタイランド」を立て直した経験を振り返りながら、「言葉も文化も異なる外国人の自分を信じてくれた従業員に報いたい、という気持ちが、経営のプロフェッショナルを目指す原動力になった」と語った。

さらに、海外で仕事をする際に必要なマインドとして、「メンタルタフネス」「自分の前後の領域にまであえて踏み込む責任感」「物事の本質を考え理解する力」の 3 つを提示。「自分が何を求められているかを考えることが次の行動を促し、目標の達成につながる。物事の本質を考え抜く習慣を、ぜひ身につけてほしい」と語った。

聴講したプロジェクトメンバーからは、「自分のためではなく従業員の幸せのために必ず成果を出す、という強い意志と行動力に感銘を受けた」「海外で働く際には、何ごとも前向きにとらえる姿勢と精神力が特に大切だと学んだ」「勉強にしてもチャレンジセンターの活動にしても、何を目指して何をなすべきかを徹底的に考える努力をしたい」といった感想が聞かれた。